

日時 Date and time	2021年7月24日（日）（150分）13時～ May 1, 2021 (Earth) (150 minutes) 13:00 ~ 15:30
タイトル Title	散歩するオンライン美術鑑賞 Strolling Online Art Appreciation
	定期的に実施しているオンライン講座での実験 Experiments with regularly scheduled online courses.
場所 Location	オンライン Online
参加者 Participant	3人 3 people
鑑賞作品 Art works	カスパー・ダヴィド・フリードリヒ「雲海の上の旅人」 Caspar David Friedrich "Wanderer above the Sea of Fog" https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AB%E3%82%B9%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%BB%E3%83%80%E3%83%BC%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%83%88%E3%83%BB%E3%83%95%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%89%E3%83%AA%E3%83%92#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Caspar_David_Friedrich_-_Wanderer_above_the_sea_of_fog.jpg



<参加者準備物>

- ・メモ用紙（A4サイズ程度、2～3枚）
- ・ペン
- ・すぐ外出できる準備。（雨の際は雨具など）

<Participants should prepare the following items.>

- ・Notepaper (about A4 size, 2 to 3 sheets)
- ・Pen
- ・Preparation for going out immediately.
(Rain gear in case of rain.)

内容	詳細 赤字は次回の改善案	時	経
Contents	Details The red part is the next improvement plan.	間	過
準備	作品の画像を事前に送っておく		
preparation	Send images of your work in advance.		
概要	プログラムについての説明。タイムスケジュール	10	10
Overview	Explanation of the program.Time Schedule		
ウォームアップ	鑑賞作品のリンクを送り、5分鑑賞した後、順番に何を考えたのか共有する。 次の順番の方が一つ質問をする。	25	35
Warming-up	Send them a link to the art work to watch, and after 5 minutes of watching it, take turns sharing what they thought. he next person in line will ask one question.		
問いを立てる	「考えの種」を一つ選び、「問い」に変換する。 紙に書き出しておく。 変換する「考えの種」は、自分のものでも、他人のものでも良い。 「問い」とは、あなたが興味を持ったこと、知りたいことで、疑問形、問いかけの形になった文章のことです。	5	40
Create a question	Choose one "seed of thought" and convert it into a "question". The "seed of thought" to be converted can be your own or someone else's. A "question" is a sentence in the form of a question, something you are interested in or want to know about.		
絵を描く	「問い」に注目し、絵を鑑賞しながら、絵を描く。 絵を描きながら、よく見る。 全体でも、どこか一部でも良い。 絵をそのまま写しても、自由に描いても良い。	10	50
Draw a picture	Pay attention to the "question," appreciate the picture, and draw it. Look closely at the picture as you draw. It can be the whole picture or a part of it. You can copy the picture as it is or draw it freely.		
散歩	20分間の散歩に出る。＊暑かったので、散歩時間は20分に短縮 「問い」を手がかりに、それに関連する発見や、 または「解」について考えてみる。 絵を描いたり、スマホなどで検索しても良い。過ごし方は自由。 絵から離れて、絵について考えてみる。	45	95
dialogue	Go for a 20-minute walk. Use the "question" as a clue to think about related discoveries and or "solution" to the question. Spend time in any way you like. Take a break from painting and think about painting.		
対話	これまで考えたことを、話し合う。次の順番の方が一つ質問をする。	30	125
dialogue	Discuss what you have thought about so far. The next person in line will ask one question.		
休憩		5	130
break			
総括	まとめる。資料を送る。	20	150
generalize	Summarize. Send materials.		

発話記録を下に、書き起こしたものであり、実際の発話とは若干異なる部分があります。

発話者：1～3の3名



指示：鑑賞作品のリンクを送り、5分鑑賞した後、順番に何を考えたのか共有する。

次の順番の方が一つ質問をする。

1：まずは、一人の男性の姿がバン！と真ん中に描いてあって目に入ってきます。で、遠くには山々の風景ですね。なんか清々しい感じがしますね、下から雲がわ～って湧き上がってきて、で、ちょっとこの男性は、かなりなんか・・・こう身なりがきちんとしていて、革靴を履いて、スーツを着ていて、この靴でこんな荒々しい山に登ったのだろうかという疑問が、ちょっと湧いてきました。

でも、よく考えると、これはこの人の心の中の風景で、実際に登ったんじゃないのかもしれないなとも、思えてきました。

で、この人は、何か遠くを見て何を思うのか、思っているのかなって考え

て・・・でも、結構あの足元は暗いんですけど、遠くが明るいので、清々しい気分で見ているのかなっていうような感じを受けました。

あの、すごくバーっとキレイな薄いブルーした絵なんですけど、足元が真っ暗なので、その対比がすごく目立つなというのと、足元結構ズームアップすると、塗り重ねが多いのか、すごくひびが入っているなと・・・ひびが入っていることから、もしかしたら古い絵なのかなとも思ったりしました。全体としてのイメージは、なんか本当に爽やかな気持ちになるような絵だなと思っていました。

2（質問）：そうですね・・・わたしとほぼ、逆のイメージだったので（笑）、どうして良いかも迷ってますけど・・・そのところから、質問していきますと・・・全体的に平均して見て、明るいのか暗いかっていうと、暗いような気がして・・・それでも、何度も清々しいイメージとか、爽やかとかっておっしゃってたので・・・でもその理由もおっしゃってたから、ちょっと質問が（笑）・・・

1：（笑）

2：なんかあの淡い水色とか、そういうのが爽やかな感じだから、なんかこう気分的に爽やかに見られたんですね。たぶん・・・

1：そうですね。比率からすると、そっちの方が広いじゃないですか。だからなんかこの人は、今は・・・今は暗い気分なのかもしれないけど、遠くを見て、あっちに行きたいなと思ってるのか、なんかそういう・・・そういう心持ちになっているのかなっていう風に思いました。足元が暗いけど、遠く・・・遠くを見て、そういう気分になっているのかなっていう風に思いました。

2：今はそうでもないかもしれないけど、明るい方に向かっているみたいなの・・・

1：そうですね。そういう気持ちなのかなと・・・

2：そういう風に感じられたんですね。何か私の質問を上手く汲み取って答えていただいたような気がして・・・ありがとうございます。

1：いえいえ（笑）

2：私は1さんのように、「だからこう思う」とまでは行ってないんですけど、いろいろ疑問の点があって、そのところがですね、大きく分けると3点疑問を持ちました。

1つは、この人は今何をしようとしてるのかっていう疑問です。飛び込もうとしてるのか、思いにふけっているのか、好奇心でこの下を覗き込もうとしているのか、どれかなーっていうふうに思いました。自分としては、「どれかな？」って思うまでで、ちょっとその先へ進んでません。

3つの疑問のうちの2番目は、あの中景の、中ほどの景色の岩の・・・岩みたいなのがこうボコボコあるところは、あのズームしてみると、水墨画みたいな、なんか山水画みたいな感じがして、あのこの人・・・髪の毛の色とか、服装とかで見ると、なんていうかのヨーロッパ系の人みたいな気がするんですけど、その中景はあの山水画みたいで、その向こうの円形のちょっと縦・・・縦にボコボコとなっている岩が、右手の向こうの方にあるんですけど、ああいうのとか、あれなんですかね・・・あのディズニーリゾートとかでビッグサンダーマウンテン？西部開拓時代みたいな、岩がボコボコしてるような景色がある・・・なんかああいうアメリカの・・・どっかこうあのすごい未開の土地みたいな、なんかそんなイメージがするし、なんか向こうに見える景色と、この人の国籍とが、なんかちぐはぐな感じがして、なんか理由があるのかなーっていう疑問を持ったってということと、

3つめの疑問が、あの風が吹いてるように見えるんですけど、風があるように見えるんですけど、髪の毛の流れ方は右から左へ流れてるように見えるんですが、あの波の流れ方が左から右に飛んでいるように見えて、あの逆向きの気がするんですね。で、あの髪もちょっと流れますけど、あの波とかが物凄い勢いで、こうばーんと、あのぶっ飛ばされてるみたいな風に見えるんですけど、その割に服が落ち着いて、服のこの揺れ方が、落ち着いてる感じがして、それもなんか不自然な気がするの、何か・・・よくわからないなっていうのが、今のところの気持ちなんですけど、話しながらふと思ったのが、もしかしたらこれ手前と向こうでは、まるで世界が違うのかなっていう風にもちょっと思ったりしました。以上です。

3（質問）：最後に言われたことでですね、例えば風ですね。風だったり、髪の毛とか、あと波かな、それぞれちょっと今あの画面は、絵は見てないんですけど、結局てんでバラバラだよっていうことで言ってるんですよね、多分、印象が。

2：あーそうですね。

3：そういう意味で言われたのかなと思って。

2：向こうとこっちが別の世界なのかなって。

3：だから画面に・・場面って言うか、この絵の画面になんか統一したものがないように感じられたんでしょうか。

2：統一・・統一がないというよりは、あの手前の・・岩と人物っていう世界と、あのそれよりまだ向こうにある世界っていうのが、別の世界なのか、くっついてる、繋がっている世界ではないのかなって感じがしました。今喋っていてそんな気がしました。

3：あーそういうことですね。つまり風景画ではないということですね・・たぶん。いわゆる風景画として描いているものではないという意味で、言われたということでもいいでしょうか。

2：そういうことになるんですかね。

3：いわゆる見た目のまま描いた絵ではないという・・どちらにしても・・

2：かもしれないなという気がしました。

3：あ～そうですか。わかりました。違う場面をくっつけたりって、よく「構想画」ってあるじゃないですか。実際の場面じゃなしに、こう・・つまり作者の思いとか、考えを絵にするっていうのかな、例えば青木繁の「わだつみの・・https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9D%92%E6%9C%A8%E7%B9%81#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Paradise_under_the_Sea_by_Aoki_Shigeru.jpg」のとかね、色々あると思うんですけど、どちらにしてもあ～そうか・・あ、いや、今言われることを聞いてなるほどと思いました。はい多分作者は・・そういうことかな。うんはい。以上です。

3：ウェブ上で作品の拡大ができなかったので、データを送っていただいたんですね。データの画像を見ると、ものすごかったです。ものすごく細かく分かったんですよ。多分、今このZOOMの画面をもし拡大してもわからなかったんだろうなあと思うのが、データを見たらわかって、今ちょっとデータの方は見てないけど、あの佐藤さんでしたっけ？ホストの方は、下の原画を、もっと細かいところは見られてるんですね。

佐藤：そうですね

3：データで送って頂いたのを見てまず思ったのが、手前の男の人がおる岩ですね、手前の岩、これに縦線を中心にした、細い線がたくさん見えたんですよ。ただ、データ頂いた方はもっと鮮明に縦にこう、水滴みたいな感じに見えたんですね。そういうのが、ただこれもっと目を凝らして他の場面を見ると、多分これ油絵だと思うんですけど、油絵特有のひび割れっていうのが、全体にもあるなって思ってみました。他の部分も結構なんか線が入った、色々ひび割れが白い線じゃないけれど、黒い線に見えるのはひび割れですよ。じゃあちょっとごめんなさい、黒い線がひび割れだとすると、白い線はひび割れでないのかな、ちょっと私は実際この絵を見ないんで分からないんですが、もしこれが白い線がひび割れてなければ、手前の黒い岩のについた水滴が流れているのかなーと思って、びっくりしたんですね。あのデータで送ったっていただかないと、分からない事だったなと。

で、ごめんなさい、これは主題ではないんですけど、もその事はまあそういうデータでいただいたことで、細かくわかったことがあったと言いたいです。

これで次に、波の波濤（はとう）って言うんですかね、これは嵐の時の・・・波の・・・波濤みたいな感じで、まず岩の向こうに見えて、その向こうには別の岩があって、何か松かなにかの木が植わっているのが見えました。

足の陰からもうちょっと松の枝みたいな・・・右の方は多分岩の上に松みたいな木が植わっている・・・うん。しかしここがもし海なら・・・海の断崖絶壁で、向こう側にも岩があるとして、こんな感じで、実際の風景としては多分ないだろう。うん。こんなところに松の木がこんなにたくさん植わっているような、自然のあれは多分ないだろうなと思って見てました。

そして次にもう一つ向こうがですね、もう一つ向こうが、あれ何なんだろう？と、海にしては（笑）、また岩もある。もちろん山も見えるし、その手前の逆ハの字にちょっと陸地みたいに見える印象がありますよね、その人物の右と左に。これは何の表現だろうな・・・まあ拡大して見ると、やはり上の方が木の印象があったので、なんか陸地みたいな・・・海の上にこんな陸地が逆ハの字で・・・そして何かおかしいよね・・・

そして、円形の山を通り越して、岩を通り越して、あの空を見ると、先ほど、どなたかが言われてたちょっと穏やかな感じ。うん、ああ、ちょっと穏やかだよなと。そして、もう1回一番手前の岩、この白い細い線が見えたんだけど、そこにはでも実際は・・・波がそんなに強くかかってないような感じがして、まあ白い細い線は、かかった後なのか・・・油絵の亀裂なのか分からないにしても・・・それで結論です。一応もうここで結論が出ました。私自身の。これは構想画。先ほども言いました、構想画。実際のこういう場면을写生したり、風景としてある訳じゃなくて。

となると、この男の人ですけど、まあ一時代前のっていうんですか、この人の心をやはり表してる。これは最初に言われたのかな、あの1さんでしたっけ、言われたような気がした、心の中とか、心象風景とか、そういうものを表していると。このいわゆる中景ですね。近景、中景、遠景と分ければ、中景は心象風景を表していると。とらえれば、まあ一応画として成り立つ、つまり辻褄が合う気がして。うん、そういう心象風景を表していると。となると、その次に心象風景、この人は何を考えてとらえているのかっていうのが、ちょっとすいません。今はまだ結論が出てません。これから考えます。

1（質問）：

皆さんの話を聞いて、あ、これは海に向かっているんだっていうのを、やっととはたと気づいたんですけど。私は、なんか山の上に立ってるのかと勝手に思ってたんですけど・・・えっと、はい。その心象風景を描いたものじゃないかっていう考えは、何か共通しているなあと思いました。で、えーとなんかまあイメージとして、まだあの心象風景、どういった印象なのかっていうのは、これから考えるって仰ってたんですけど、受けるイメージとしては、この人はどんな気持ちなのかなって・・・パッと見たイメージはどうでしょう？どういう心持ちであるという風なイメージを受けましたでしょうか？

3：そうですね。あの自殺するようなイメージじゃないですね。そんな暗いイメージに・・・やっぱり・・・やっぱり遠景の空の穏やかさ・・・穏やかかって言うと、ちょっと語弊があるかもしれないけれど、そういうのと、あと今海って言われたじゃないですか。私は波濤・・・波みの高いイメージ表現で捉えとるんですけど、ただすぐ陸地もあるし・・・ここが場面は海とは限らないと思います。ただ岩があって、断崖があって、海みたいな感じだけど、陸地の表現もあるので、あの心象として、そういう波濤という・・・海とより波濤ですね。そういうものは、2時間ドラマでよく出てくるような（笑）・・・そういう波濤をイメージして、海というイメージではないです。ごめんなさい。つまり遠景が陸地みたいな表現もあるしとか、そういうことも含めて、いわゆる大海原が広がっているわけではない。

あのそれと、すいませんどういう心象かって言われると、それはこれから考えないといけなかっていう（笑）・・・自殺するなんじゃなしに、やっぱりそういう荒波っていうんですかね・・・何かこう自分に・・・対

する・何か厳しさっていうんですか、現状のそういうものは痛切に感じているけれども、それは乗り越えるべきものだということで、仁王立ちみたいな感じかな。

1：ありがとうございます

指示：「考えの種」を一つ選び、「問い」に変換する。紙に書き出しておく。
変換する「考えの種」は、自分のものでも、他人のものでも良い。

↓

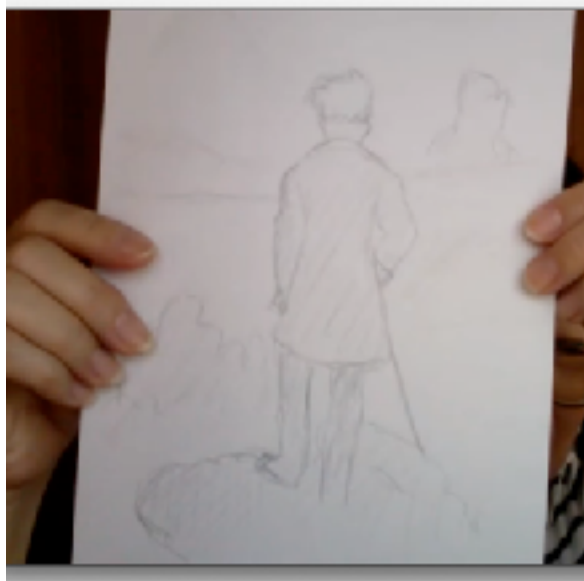
指示：「問い」に注目し、絵を鑑賞しながら、絵を描く。
絵を描きながら、よく見る。全体でも、どこか一部でも良い。
絵をそのまま写しても、自由に描いても良い。

↓

指示：20分間の散歩に出る。
「問い」を手がかりに、それに関連する発見や、または「解」について考えてみる。
過ごし方は自由。絵から離れて、絵について考えてみる。

↓

指示：順番に今回の鑑賞の中で何を考えたのか共有する。次の順番の方が一つ質問をする。



佐藤：問いかけ的なことは、どんなことを考えられましたか？

1：この人は顔がやっぱり見えないので、すごく逆に気になりました。この人は一体何者なのか、えーと、何をしようとしているのか、この人の役割は何なんだろうかっていうことが、気になりました。
なので、絵もこの人を中心に描いてみたんですけど・・・後ろ姿ですね。改めて見ると、なんかステッキを持っていて、さっきも、身なりがちゃんとしていて、身分の高い人なんじゃないかって思っていたのが、やっぱりこう細かく見ていくと、そうですね・・・洋服もちょっと高価な感じだし、この人一体何者なんだろうかってことを考えつつ、外に出て行きました。

で、この人の気持ちなど考えながら、（意識的に絵から）ちょっと離れてもいってことだったんですけど、離れつつも、頭の片隅にあって歩いていたという感じですね。

家のすぐそばに、もう廃校になった中学校を利用した施設がありまして、ちっちゃい子の保育所・・・と何でしょうね、学童みたいなのになってるんですよね。前からそこを通ったりはしてたんですけど、しっかり見たことがなかったので、ああ、こんな風になってんだって思いながら、「ここ公園みたいになってんだ」なんて思いながら、ちょっと水分取りながらベンチに座ったり、遊具に触ってみたり乗っかってみたりとかして、ちょっとぼーっと空を見上げたりとかして・・・で、まずそこ施設のの中に入っていくと、まあ誰でも入れるところがあって、そこに入って行ったら、空が、広い空が見えて、すごく綺麗な青空で、雲もぽっかり浮いていて、そこでちょっと白い鳥が・・・サギなのか、なんか2羽パツて飛んでるのが見えて、思わず見上げていたら、

この人は・・・あの最初の印象では、あの清々しい気持ちでって言ったんですけど、まあ皆さんのお話も聞いていたりすると、またちょっと考えが変わってきて、遠くを見つめている＝なんか憧れみたいなものがあるのではないかなと思って、その鳥が飛んでるのを見て、なんかこう、この人には実は描いてないけど、飛んでる鳥とかも見えてたりするのかなって、鳥のように何かこう、向こう側に飛んで行きたいと思ったりも・・・もしかしたらしたかもしれないという風に思って・・・その、偶然飛んできた鳥を見て、私が思ったんですけど・・・

そうですね・・・この人・・・結局何なんだろうなーって、ずっと考えてみた結果なんですけど、なんかこう身分がある人＝なんか当時の政治家かなんかか、なのか・・・だけど、今自分はすごく辛い立場にあって、もうどうしたらいいかっていう風に思って、ここに来て遠くを見て、なんか憧れ・・・ああいうなんかこう清々しいところに・・・こうなんだろう、爽やかな所に行きたいっていう風に思いつつ、あの遠くの空っていうか、山々の方ですね・・・足元はちょっと荒々しい感じになってますけども、それが今の自分を表しているようなイメージを持ったんですけど、その遠くの穏やかな山々の方を見て・・・そういう心持ちになりたいっていう憧れみたいなものを・・・表してるのではないかなっていう風に思いました。

だから、この人の表情はどんなだろうっていう風に、もうずっと考えてたんですけど、多分ですね、もうなんか無の表情・・・本当に遠くを見つめる無の表情なのかなーっていう風に思いました。

で、えーとなんでこういう事に気になったとかっていうか・・・人間の役割は何なんだろうとかすごく考えてしまったのは、まあ変な話・・・昨日からオリンピック始まったんですけど、開会式問題っていうのは・・・今そのことですごく・・・もうなんかモヤモヤしていて、直前に音楽担当が解任・・・じゃないや、辞任し、前日にディレクターが解任されみたいので、結局、開会式見たんですけど、まあ・・・「もうどうなっちゃうんだろう」と思ったんですが、あの・・・一見、見た目は滞りなく・・・終わった・・・ちゃんと進んでいて、きちんと終わっていて・・・ああ～、なんかそんなもんなのかな・・・っていう・・・感動したというより、虚無感が残ったんですね。

人間・・・人の役割ってなんなんだろう・・・ていう。でも、良い方に考えたら、人が一人や二人、突然辞めさせられたりしても、なんかなくなっちゃうんだな・・・っていうことを感じていたので、そっからこの人の気持ちにすごく・・・心が持っていけたっていう感じです。

はい以上です。

2：あのなんかこう話が進んでいくごとに深くなって行って、すごくなんかあの感動しました。

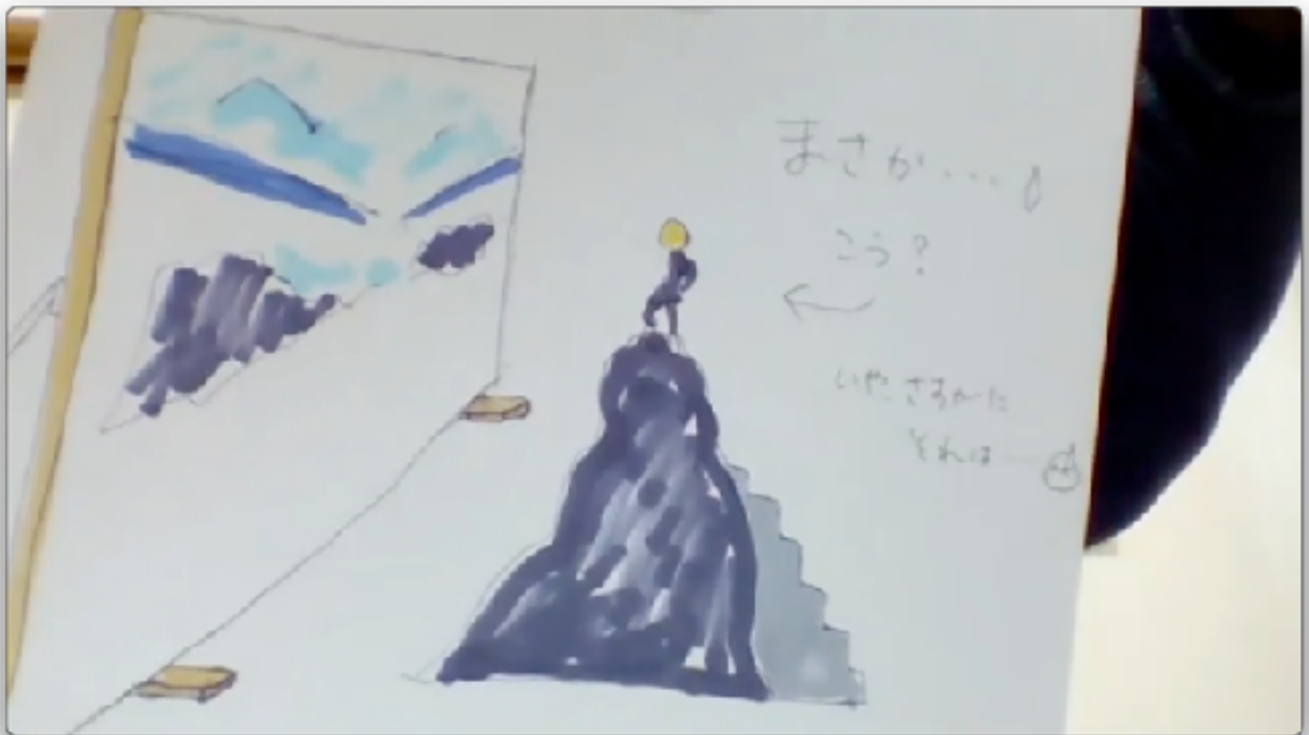
1：ありがとうございます。（笑）

2：他の人の感想を聞くと、自分と真逆だったり、自分と同じ部分があったりで・・・真逆だったとしても、「ああ、確かに、そういうふうにも見れるな」っていうふうに新しい気づきとして自分の中にずっと入ってきたりで、本当に他の人の感想を聞くのは、興味深いなと毎回思うんですけど、今回もその先ほどのこの

散歩に出る前の感想でも、あの「海とは思わなかった」って言われたら、私も・・・3さんも言われてましたけれど、私も、海とは限らないなって、海の水面とかどこにも描いてないなって思って、そうしてみると雲海みたいな気がしてきて、言われないとそういった考えが変わらないし・・・あのそうですねだから、まあ、あえて質問するとすれば、この・・・要するに、この立っている人は、あの一言で言うと、虚無感って言う・・・風に思われたってということですかね。

1：虚無感から・・・え～・・・虚無感っていうのは、そのオリンピックで考えた、開会式で考えたことなんですけれども、まあ虚無感+今の辛い自分から、ちょっと逃げたいみたいな、憧れ・・・遠くの穏やかな山々を見て、憧れを持っているような感じがしました。虚無感・・・より憧れの方が強いのかなーっていう、そっち・・・今の辛い自分を・・・脱出して、穏やかな所に行きたいなっていう、憧れを表しているのかなっていう・・・気が・・・気持ちが強くしました。

2：ありがとうございます。

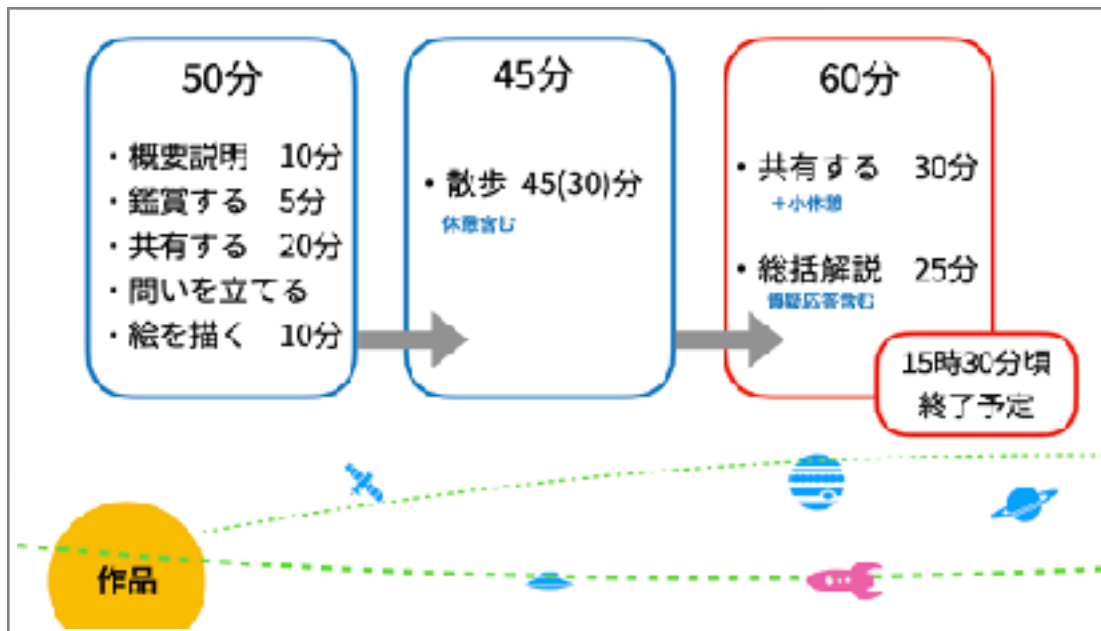


2：私はあのちょっと話が一旦横道に逸れるんですけど、また戻ってきますので（笑）。

横道にそれるために、その我が家のすぐ近くにあるYCAM (<https://www.ycam.jp/>) を通過して、その向こうに中央公園っていう、あの芝生の広い、だだっ広い公園があるんですけども、そこ行って。

まあ芝生と言っても、木陰もあって、ベンチがあって、その木陰のベンチに腰掛けて、ちょっとぼーっとしていたら、あの・・・アオスジタテハ (<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%AA%E3%82%B9%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%82%B2%E3%83%8F>) が

す〜っと近くを、さ〜っと飛んで行って、「あ、アオスジタテハがこんなところにいるんだ！」って思って、上を見上げたら、私が入ってる木陰が、楠の木じゃないかなってような感じだったんです。確かアオスジタテハって楠の木に卵を産卵するのかなというのを思い出して、アオスジタテハは、楠の木で生まれて、もしかしたらさっき飛んできたアオスジタテハは、この楠の木で生まれて育って、楠の木の葉っぱを食べて、この木で育って・・・で、羽化して、無事羽化して、あの外を飛んで行って、それで冒険してきて、恋をして、卵を生みに戻ってきたのかもしれないと思って。そうした時に、あの佐藤さんが最初、説明の時に書かれたあのロケットの絵を思い出しまして。



(説明の時に用いたビジュアル。散歩によって視点が作品から離れて、また戻ってくる様をロケットに例えていた。)

あの地球っていう作品から・・・地球を作品に見立てて、そこからロケットが出発して、宇宙の彼方の方まで行ってきて、それでまたクルッと戻ってきて・・・っていう絵を思い出しまして、何かそれと一致してるなあみたいな気がしました。

それと、また関連して付けて、あの実際これベンチに座っていてそういう風にぐるぐる思って思いが巡ったんですけども、私、風の流が逆だって言ってたのは、今この人の所に吹いてる風は、左向きに流れていて、で、左からぐるっと向こう回って、あの岩の辺を通る時には、右に向きが変わったのかなって(笑)。なんかちょっと馬鹿っぽいかなって感じなんですけど(笑)。

ぐる〜っと風が回っていて、それでぐる〜っと回ってこっちに戻ってきたかもしれないとか思って。あの辺、なんかぐる〜っとと風がもしかしたら回ってるから、こっちの景色と向こうの景色は、反対向きに風が流れてるかもしれないと思って・・・思いました。

それで、ということはですね、あの、この人の気持ちとしては、このなんて言うか・・・あの作者がこの人に託した気持ちってありますか・・・作品に託した気持ちっていうのは、多分、え〜っと、あの広い世界・・・遠くの方の広い世界を覗こうとしたけれど、何かの理由で・・・体重が後ろにかかったままで・・・あの、後ろ側に位置している足の方に、完全に体重がかかってるように見えるんですよ、私にとっては。前の方に行こうとしているというよりは、何が何でも後ろにとどまるってというような姿勢にも見えて、あの・・・なんて言うんですかね、向こうの方が明るい景色だし、こっちの方が暗い景色なんだけど、でもあえて暗い方に一生懸命・・・「この足を離しは駄目だぞ！」みたいな、なんとかとどまっているように思えてきました。

それであの何て言うんですかね・・・えーと、向こうに思いを馳せているんだけど・・・でも行かない。こっちへもうとどまるって言う、それはあの・・・でも向こうの景色がこうちょっとこう明るいところで、あの・・・何て言うかな、そうやってここに暗い所に止まるけれど、なんかの理由で、その決して将来は暗くはないぞ、みたいな、何か明るいものを未来に見ながら、暗い所に・・・あの、今はここだ！みたいな、とどまってるような、覚悟みたいな・・・そんな感じを・・・あの感じました。

また別には、それでも相変わらず向こうの世界は輝いていて、いつかは行くぞ～！みたいな、なんか希望はあるけれど、でも今はここだ！みたいな、覚悟みたいな・・・そんな気持ちをあの思いました。

それから・・・あの・・・思ったことを忘れないようにメモをした後に思ったんですけど、メモした後で私思ったんですけど、あのこの今やっているこの鑑賞プログラム、これは・・・あのもしかしたら、この何かその・・・美術の鑑賞をした時には、何か「へえ～」って過ぎても、後その何日か経った後でとか、何年か経ったとき、ふっと何かのきっかけで、あの何かのきっかけでふと思い出して、「あれ？あの作品ってこういうことだったのかしら？」って思うようなことがある、そののなんていうか、短い時間バージョンの体験だったのかなっていう気がしました。

それと、ちょっと全然関係ない見方ですけども。外でね、スマホでその絵をちょっとここで写真撮ってから、それをスマホで持ち出してたんですけど、外でそのスマホの再生画面をこう見てみると、あのちょっと広げてみると、あの中景にある山水画みたいに見えた岩なんですけども、あれが何か手のひら・・・手のように見えて・・・手がこう、指こうなってる（片手のひらでなにかをすくうような形）なんかこう色んな表情で、いくつかの指がこうなってるようにも見えて、あんな岩って普通ないなと思って、なんかちょっとこう・・・なんか岩のように見せかけて、実はこうなんかシュールレアリスムみたいな、岩みたいだけど実は手だったみたいな・・・手がいっぱいあの辺にあって、ちょっとあの孫悟空が手のひらぐる～っと世界一周回ってきてから、えらい遠くに来たぞ、やった～！って思ってたなら、実は観音様の掌だったみたいな、そういう大きい手のひらみたいな感じにも見えました。ちょっと全然違う・・・見方の感想になりますけれども、以上です。

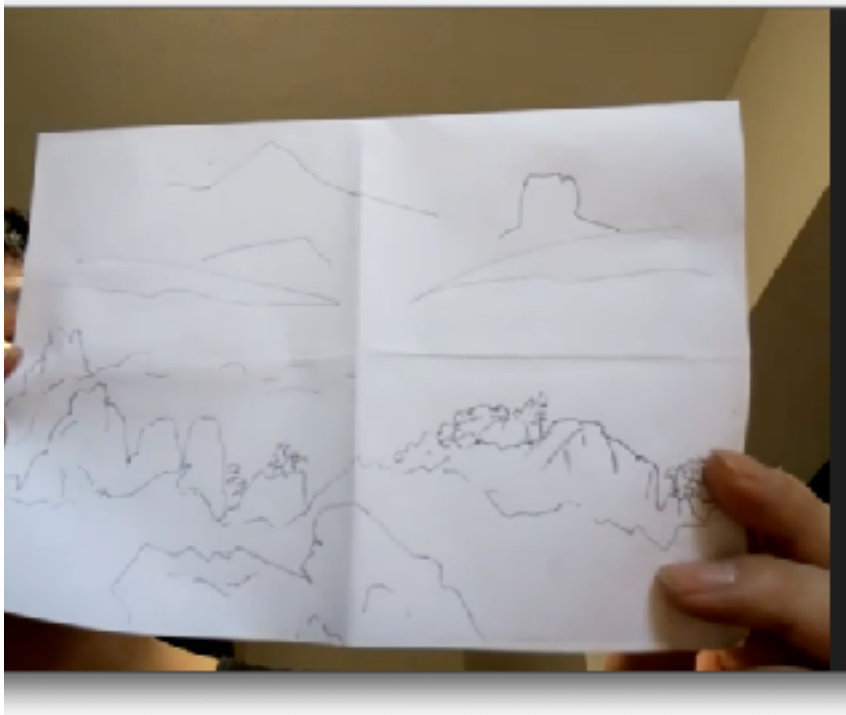
3：（質問）質問ですね。まずね何か希望っていう言葉を言われてましたよね。希望というのは、それは画面の向こう側の色が明るいとかいうことも含めてなんでしょうかね。

2：そうですね。自分がいるところからすると、明らかに明るいと思いました。

3：そうですね。それは、手前の人物とかの立っている岩とのコントラストって言うんですか、それが明確に差があるので、やはりそれは作者が意図したことだという意味で捉えていいのでしょうか。

2：はい。そうですね。

3：やはりそういうように捉えられたと言うか、私も同じような感じに捉えたので、納得しました。



3：（絵について）ただトレースしただけです。それはいわゆる主人公と言うんですか、人物がいない風景をちょっとね。線がちょっと見えにくいかな？

佐藤：人物がいないバージョンって事ですね。

3：そうですね。トレースしました。あのトレースすることで、結局は一体何が描かれてるかっていうのを、まあ考えながら描くという意味で捉えたんですが・・・まあ別に大した絵じゃないんで引っ込めますが・・・

あの前半で他の方が言われたように、中景の部分・・・中景ですね、あの近・中・遠と考えれば、中景の部分は、浮世絵、日本画みたいな感じで、あのそんな感じでちょっと見えたんですけども・・・まあしかし、それを作者の人が浮世絵・・・ジャポニズムの関係があって、それを導入されたかどうかまではわからないので置いといて、やはり、構造的な感じで見れば、色んな要素を一つの画面に、埋め込んだような・・・しかし色彩は多様ではないですよ。そういう意味での統一感っていうか、絵の統一感はあるのかなと。

あと、先ほど言われたような中景にごめんなさい、私はね波濤だと思ったんですけど、やっぱり色々考えると・・・まあ波みたいにも、波のようにも見えるんだけど、やっぱりこれは霧・・・霧をこういう表現にしたとも言えるし、それはどちらにしても当てはまると思うし・・・少なくともこれは実際の風景を描写した風景画ではないなと。まあ、まあそういう結論の下に思えば、あの両方ともちょっとミックスしたような表現だなと。

まあそういう中で、ちょっと今何を私を言ったらいいんか・・・あ、散歩したことも言った方がいいですね・・・散歩は、私はあのこの会の前にちょっと用事があって、100均に行かなきゃいけなかったんで、それがもう散歩だったんですね。で、ギリギリで戻ってきたんで、もう特にそれからは外に出るのはやめて、あのまあ外には出たんですけど、ベランダに出ました。ベランダに出て、外の風景を眺めたうえで、布団とかを裏返しにしました。この後食事もとってなかったんで、簡単に・・・ちょっと食事を作って食べました。まあ結局、絵から完全に離れたような感じだったんで良かったんですけども、かといって全体的に印象はあの大きくは変わりません。

先ほどお話を聞いた上でも・・・どうなんだろうな・・・あのね一つ気になったのはステッキですね。ステッキの話は多分今まで出てないような気がしたんで・・・かなり長めのステッキだなあとは思んですけどね。最近あるような・・・100均でも売ってあるような・・・ないしは登山用のステッキに比べると、ちょっと長めのステッキを持たれてる、この男の人が。で、服装とかも考えて、年代がわからないけれども、昔は、昔・・・なんでしょうね、まあ100年以上・・・100年かそれ以上前の・・・で、長めのステッキ・・・どういう意味なのかなと。

で、これは実際・・・こういう場面、風景を、実際に描いてたんじゃなければ、やっぱりステッキを持つということはどうなのかな・・・長い・・・長いやっぱ・・・まあ、例えば旅だとか・・・徒歩ですよ・・・まあ実際全部は徒歩で行くかは別にしても、やはり徒歩で行くんだっていうことを示しているはずなんで・・・まあそれがひとつの決意じゃなかるうかなと。

そして印象的にこの絵のことだけを言えば、人物と岩の、逆光気味の黒い表現と、奥の波濤なり、霧なり、そして奥の山並み・・・あとちょっと明るめの空・・・こういうものがやっぱりこの人が今後遭遇・・・遭遇すると言うか、覚悟の上で遭遇する、そういう未来を表している・・・そういう・・・まあ表そうと、描いたんじゃなかるうかとそういう思いです。以上です。

1（質問）：散歩の時間になる前は、「この人の気持ちとかは、これから考えます」、というふうにおっしゃっていたんですけども、えーと・・・終わってみて、その遠くの風景とかは、この人の未来を暗示・・・と言うか、なんか未来を表しているみたいなお話だったんですけども、結局なんかこの人の気持ちとかは、なんかどんなふうに感じましたでしょうか。それを教えていただけたらと思います。

3：まあ考える上では、一つはこの男性は作者だという気持ちではいます。あの後ろ向きで顔がないんで、具体性を持たない想像的な存在ともとれるんですけども、やはりこの作者の気持ちだとしか、ちょっと想像するしかない・・・ちょっと今はないですね。

と、考えた上で、じゃあその心持ちはどうなのって言うと、やはりあの手前と奥でコントラストが非常に大きいので、あの悲観的な・・・悲観的な心情を描いたものものではないと。そう思いたいですね。少なくとも、あの空の表現ってのは・・・でもすごくちょっと分かりにくいですよ。具体的なものは何もないんです。具体的なものは何もなくて・・・青空が広がってるわけではないけれども・・・まあね逆にここで青空が・・・いいのかわからないけれども・・・でもまあ、穏やかな感じは想像させますね。

でもね、やっぱこれから未来のことなんて誰も・・・確定できないよね。その中の希望というのは、やっぱあるもんじゃなかなと・・・具体的にそれが希望として・・・何かこう物質的なものを表現しないっていうのは・・・それはやはり、自分自身の問題、問題をやっぱり抱えてる。今の問題。将来関わるであろう問題・・・そういうものはやはり、吹き飛ばしていくという・・・そういう心情を表しているものと・・・ま、すいません。解釈したいですね。解釈できるかどうか分かりませんが・・・以上です。

1：分かりました。ありがとうございます。ステッキは私も・・・私も絵を描いててなんかすごくステッキ持つてな一っていうのは改めて気づいたところです。同じだなという風に思いました。はい。

3：まあ自分たちは、外人でもないし、この描かれた時代の人間でもないのですね・・・まあそういうものの自体が、何を意味するのかどうなのかっていうのはね、ちょっとね・・・本当に推測も難しいんでね・・・

1：はい分かりました。ありがとうございます。

参考資料

カスパー・ダヴィッド・フリードリヒ

1774~1840 ドイツ

ドイツロマン主義絵画を代表する画家 宗教的寓意を含む風景画

バルト海沿いの小さな港町に生まれる。10人兄弟の6番目。幼少の頃、妹を亡くす。

13歳のとき、自分がスケート中に氷が割れて溺れたところ、助けようとした一番下の弟が溺死してしまう。

「頬づえをつく自画像」1802



ゲルハルト・フォン・キューゲルゲンによる肖像画 1810-1820

↑



36歳の自画像 1810



「フリードリヒとそのアトリエ」 1811↑
余計なものは何も置かない。
窓の見える部分は占める。
長い棒は、手を画面につけないように。



「フリードリヒとそのアトリエ」 1819↓
ゲオルグ・フリードリヒ・ケルスティング
(友人が描いた絵)

スケッチをもとに、イメージを組み立てて、風景画を描く。
＊本当の風景をそのまま描いているのではない。
チューブ入り絵の具の誕生＝1840年頃



「山上の十字架」 1807~1808

キリストと十字架が小さく後ろ向きに＝
従来の宗教画では考えられない構図 物議を醸す。

＜肉体の目を閉じよ。
そしてまず精神の目で自己の像を見るのだ＞



「海辺の修道士」 1808~1810



「櫛の森の中の修道院」 1809~1810

対になった作品

大きな自然と小さな人間（後ろ姿）

「氷の海」 1823~24



代表作のひとつ。実際にこの場所へ行ったことがあるわけではない。



「雲海の上の旅人」 1818

＜私は自然を完全に見つめ、感ずるために、
一人でとどまり、自分が一人であることを知らねばならないのです＞

作品↓ウィキペディア「雲海の旅人」について

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%B2%E6%B5%B7%E3%81%AE%E4%B8%8A%E3%81%AE%E6%97%85%E4%BA%BA>

この作品の題名はドイツ語で『Der Wanderer über dem Nebelmeer』であるが、日本語の題名を『雲海の上の旅人』とした場合、原題の意味のいくつかが失われることになる。ドイツ語 "Wanderer" には "放浪者"（迷って目的を探そうとしている人）の意味と"ハイカー"（目的をもって旅をする人）の二つの意味がある。

またドイツ語 "Nebelmeer" には "霧の海" と "海の霧" の二通りに解釈できる。このことから、この絵の邦題は『霧の海を眺めるさすらい人』、『雲海を見下ろす散策者^[10]』とも訳される。



「朝日の中の婦人」 1818↑

← 「窓辺の婦人」 1822

「なぜ後ろを向いているのだろう？」

作品↓

https://commons.wikimedia.org/wiki/Caspar_David_Friedrich?uselang=ja